

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103069		
法人名	株式会社 ライフ敷島		
事業所名	グループホーム みのりの家		
所在地	岐阜県岐阜市野一色6丁目10番26号		
自己評価作成日	2019年11月29日	評価結果市町村受理日	2020年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kani=true&j_gyosyoCd=2170103069-00&ServicCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	2019年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の緩和のために、歩行訓練やカラオケを毎日実施し、定期的に、生け花教室等を実施しています。また、希望者には、有料ですが、くもん学習療法を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくりと・いっしょに・たのしく」の理念の基に利用者のペースを尊重したケアを提供している。90代の方が3名、入居後9年となる人もいて、利用者の介護期間の長期化と共に低下傾向になりやすい身体レベルが維持できるように支援している。外出機会の確保に苦慮しつつも歩行訓練、カラオケ、パズル、生け花教室や学習療法を取り入れ、日中活動を活性化して体力を維持し、車イスを押しながらも自力移動を目標にしている。夏祭りは、毎年歌手が訪問し、住民と共に触れあいの機会にしている。職員の健康状態は特に留意し、家庭環境や体調に合わせた勤務形態として離職する職員が少なく、利用者との関係を良好にしている。利用者と共に和やかで家庭的な雰囲気大切にしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に理念を掲げ、毎日、確認しながら仕事をしている。	「ゆっくりと…いっしょに…たのしく…」の理念が、いつでも確認できるように玄関や事務所に掲示している。利用者のペースを尊重したケアを提供しているが、職員で理念についての振り返りや話し合いができていない。	開設以来の理念であるが、全職員で話し合いの機会を設けて、振り返ったり検討したりして、理念を共有化する努力が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、自治会長に運営推進会議に参加してもらうなど、つながりは増えてきている。	自治会の行事に管理者が参加し地域とのつながりに努めている。夏祭りには家族や住民が参加し、職員が手作りの料理でもなしている。ボランティアとの触れ合いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な発信は行っていないが、問い合わせや見学等には、気軽に応えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練の見学など、行ったことの報告や取り組みを発表し、意見の交換を行っているが、定期的開催できていない。早急に、管理者に担当者になってもらい、定期的実施できるようにしていきたい。私は、議事進行や、資料作成のサポートをしていきたいと思えます。	隔月の開催日が遅れる場合もあるが定期的開催している。メンバーから意見がもらいやすいように、事業所の日常を見てもらい助言を得ている。自治会長からは、地域行事の情報を得て利用者との参加を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加をしてもらっており、協力関係を築いている。	電話やメールで市と連絡をとり、実情を伝えている。介護保険法の改正や制度上の問題点は、担当者に確認したり、市が主催する会議に参加したりして情報を得ている。経済的に困難な利用者については、連携を密にして受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束はしない方針ですが、徘徊の方も入居されているため、玄関の中扉は、家族様の了解をいただき施錠させていただいている。ただし、外からは、簡単に解錠できるようにになっている。	玄関はいつでも開放しており、エレベーターでの昇降も利用者が自由に行き来できるようにしている。身体拘束をしないための指針やマニュアルを整備している。身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に1回開催し職員で情報を共有し、拘束しないケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、外部の講習の参加し、報告会をするなどし、職員の意思の疎通を行っている。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講習や研修会に参加したり、ミーティングでの議題にしたりして、意思の疎通を図っている。また、必要と思われる入居者には、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、全文を読み、説明後に署名、捺印をいただいている。分からないところは、後からでも、説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望は、出来る限り聞くようにしていますが、出来ない場合は、その理由等を説明し、納得してもらっている。	家族が面会で来訪時に、利用者の日常の様子を知らせて意見をもらいやすくしている。来訪が少ない家族には、行事写真を送付し意見をもらっている。必要に応じて電話で状況を知らせ、意見を聞き、取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、毎日の引継ぎに参加し、職員の意見を聞き、運営に反映している。	管理者にはいつでも意見が言える関係があり、業務内で職員が意見を言っている。必要時はその場にいる職員が話し合い、利用者のケアに活かしている。職員の家庭事情や体調を配慮しシフトに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の制定や、各種手当の支給をしていますが、安い給与でも離職率が低いのは、働きやすい環境になっているのだと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の講習でも、有意義で、仕事に役立つものなら、有料のものでも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加し、情報の交換したり、仲良くさせていただいているGHもあります。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、本人に聞き取りをしています が、家族様からも、追加の情報を得て、安心できる関係を築けるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族様の困っていることや、不安に思っていることを聞き取り、解消できるように努めている。また、要望も出来る限り聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、一番必要なことを考え、その後のことを考えながら、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とは、家族のような関係を築けている と思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、状況報告などで、常に連絡し、入居者との関係が途絶えることがないように努め、一緒に支えていける関係を築けていけるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の設定をせず、いつでも訪ねてこれるようにしている。また、体調不良以外は、外出できるように支援している。	友人や親族が面会時は、ゆっくり話せるように場所に配慮している。携帯電話の充電確認や年賀状の宛名確認をしている。家族に協力を依頼し、自宅や外食に行く人もあり、関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、職員全員が、孤立する入居者がないように支援している。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、相談があれば、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理な場合を除き、本人の希望を出来る限り聞くようにしている。	自分の言葉で意思表示できる人には、その人に寄り添って思いを聞いたり、本人が答えやすい聞き方の工夫をしている。困難な人には、表情や仕草から推測したり、家族から情報を得たりして意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報だけでなく、入居後に得た情報も職員全員で共有し、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりが出来ることを、職員全員で共有し、日々の変化も、引継ぎで共有し、支援に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、ケアマネ、管理者が検討し、作成したケアプランを、入居者、家族さまに確認していただいている。	本人や家族の意見を事前に聞き、医師の意見も参考にして介護計画を作成している。入居後は1ヶ月で見直しや確認している。生活見直しシート、モニタリング実践記録表や職員意見にて、必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に、時系列に沿った記録をして、保管している。引継ぎ時に、情報提供して、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれ状態等が違うため、それぞれの入居者に合った、支援が出来るよう心がけている。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の夏祭りなど、参加できる行事は、参加できる支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族さまの同意のもと、当ホームの主治医が、月2回の往診をしてもらっている。急変した場合は、状態に合わせ、主治医や、救急病院へ、従業員が付き添い行っている。	入居時に本人や家族の希望で全員が協力医に変更し、契約による訪問看護を利用している。緊急に専門医を受診時は、職員が付き添い家族と病院で合流している。歯科医の訪問診療もできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師に、週1回の訪問を受け、健康管理をしてもらい、その情報と、普段の情報を主治医に報告し、適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院と連携し、早期の退院が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化した場合に、施設として出来ることは、入居時に説明しており、それ以上のことは、主治医や病院と協議し決めている。	入居時に事業所でできることを説明し、看取りはしない方針を伝えている。その人の状態に合わせ、食事形態の変更や栄養剤を補給し、できる範囲で支援している。口からの飲食が困難になった時は、医師と職員が家族に説明し、今後の方向性を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練の実施が出来て無く、前回より間隔があいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1回は、消防署の方が来て、機器の動作確認を兼ねて実施しましたが、2回目が実施できていない。こちらも、早急に職員に担当者をやってもらい定期的な実施を行っていききたい。	消防署員が立ち会い通報訓練や避難訓練を実施し、火災時はベランダに避難し窓を閉める確認をしている。水、食料やスポーツドリンクを備蓄している。夜間想定訓練が実施できていない。	非常時に落ち着いて迅速に行動できるように、夜間想定訓練を早急に実施されたい。

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人にあった言葉かけを心がけている。	利用者の呼称は〇〇さんで声かけし、その人に合った声の大きさやトーンに注意している。必ずドアをノックし入室している。行事写真等は本人や家族の同意を得て掲示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パズルや、作業など、行ってもらっているが、無理強いせず、本人のやりたいことを行ってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールは決まっているが、状態に合わせて、違う時間でも出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方は、できるだけ化粧してもらい、定期的に毛染めをしてもらっている。男性は、毎日髭剃りなど、身だしなみを整えてもらっている。また、定期的に、美容師に訪問してもらい、カットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に同じものを食べ、用意や片付けなど、できる方には、手伝ってもらっている。	献立の希望を言う人は少なくなっているが、旬の食材を利用し食欲をそそる献立にしている。下拵え、台拭きやお絞りたたみ等のできることをしてもらっている。職員も一緒に食事をし話題を提供するなど楽しい時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量などを記録し、一人一人に合わせて、水分補給や、補助食品の摂取をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、その方に合わせた口腔ケアを行っている。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツから、紙パンツ、布パンツへと、排泄の自立に向け支援している。	排泄チェック表でその人に合わせて声かけしトイレでの排泄を基本にしている。夜間もトイレ誘導したり二人介助したりして自立に向けた支援をしている。トイレ排泄が自立し自宅に戻れた人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄表をチェックし、個々にあわせた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体制上、毎日の入浴支援は困難なため、曜日を決め、職員1人が付き添い入浴してもらっている。	希望に合った湯温や入浴剤を使用し、職員との相性にも配慮し楽しみな入浴にしている。身体状況にて二人介助での入浴もしている。嫌がる人には、職員が交代したり、声かけの工夫をしたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を見て、昼寝や運動をしてもらったりし、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者別に、一回ごとに分けてあり、職員は、薬の目的や副作用を理解し、服薬を支援している。体調が変化したときは、主治医に相談し、薬の変更もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のことをしてもらったり、お手伝いをしてもらったり、思い思いに過ごしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人での外出は行ってなく、職員、もしくは、家族様等の付き添いで外出は、自由に行っている。	花見は弁当を持参し、車イスの人も一緒に出掛け、恒例行事となっている。家族に協力を依頼し、喫茶店、外食、自宅や旅行に行く人もいる。家族と旅行中であっても利用者の状態変化や不都合が生じた場合は、夜間でもいつでも戻ってもらえる事を伝えている。	

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる方は、持ってもらうが、ほとんどの方が、必要なものは、立替払いをして、利用料と一緒に請求させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	節句などの飾りや、生け花教室で活けた生花などを飾り、季節感を出せるよう心がけている。	屋外のプランターに季節の花を植え、玄関にクリスマスツリーや観葉植物を飾っている。居間には、新聞や雑誌を置き行事写真を貼って、話題が広がるようにしている。好きな場所で過ごせるようにイスやソファを置いている。温度管理し空気清浄機を置き、居心地良い環境にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階は、スペースの関係上、居室以外で、一人になれるスペースがないので、必要なときは、和室を使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から、家具等を持ってきていただく前提で部屋をお貸ししているが、最近は、持ち込まれる方がほとんどいらっしやらない。また、畳が良い方は、畳を使用してもらっている。	使い慣れた寝具類や時計を持ち込み、自分の作品、家族写真や遺影を飾っている。希望で電気こたつを使ったり、畳やマットに布団を敷いたりして、自分好みの居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーなので、車いすで、全て移動できるようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103069		
法人名	株式会社 ライフ敷島		
事業所名	グループホーム みのりの家		
所在地	岐阜県岐阜市野一色6丁目10番26号		
自己評価作成日	2019年11月29日	評価結果市町村受理日	2020年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kani=true&I_gyosyoQ=2170103069-00&Servi_cdQ=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	2019年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に理念を掲げ、毎日、確認しながら仕事をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、自治会長に運営推進会議に参加してもらうなど、つながりは増えてきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な発信は行っていないが、問い合わせや見学等には、気軽に応えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練の見学など、行ったこのの報告や取り組みを発表し、意見の交換を行っているが、定期的に関催できていない。早急に、管理者に担当者になってもらい、定期的実施できるようにしていきたい。私は、議事進行や、資料作成のサポートをしていきたいと思います。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加をしてもらっており、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束はしない方針ですが、徘徊の方も入居されているため、玄関の中扉は、家族様の了解をいただき施錠させていただいている。ただし、外からは、簡単に解錠できるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、外部の講習の参加し、報告会をするなどし、職員の意思の疎通を行っている。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講習や研修会に参加したり、ミーティングでの議題煮にしたりして、意思の疎通を図っている。また、必要と思われる入居者には、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	けいやくじに、全文を読み、説明後に署名、捺印をいただいている。分からないところは、後からでも、説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望は、出来る限り聞くようにしていますが、出来ない場合は、その理由等を説明し、納得してもらっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、毎日の引継ぎに参加し、職員の意見を聞き、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の制定や、各種手当の支給をしていますが、安い給与でも離職率が低いのは、働きやすい環境になっているのだと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の講習でも、有意義で、仕事に役立つものなら、有料のものでも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加し、情報の交換したり、仲良くさせえいただいているGHもあります。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、本人に聞き取りをしています が、家族様からも、追加の情報を得て、安心できる関係を築けるようつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族様の困っていることや、不安に思っていることを聞き取り、解消できるように努めている。また、要望も出来る限り聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、一番必要なことを考え、その後のことを考えながら、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とは、家族のような関係を築けている と思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、状況報告などで、常に連絡し、入居者との関係が途絶えることがないように努め、一緒に支えて行ける関係を築けていけるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の設定をせず、いつでも訪ねてくれるようにしている。また、体調不良以外は、外出できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、職員全員が、孤立する入居者がないように支援している。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、相談があれば、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理な場合を除き、本人の希望を出来る限り聞くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報だけでなく、入居後に得た情報も職員全員で共有し、支援に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりが出来ることを、職員全員で共有し、日々の変化も、引継ぎで共有し、支援に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、ケアマネ、管理者が検討し、作成したケアプランを、入居者、家族さまに確認していただいている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に、時系列に沿った記録をして、保管している。引継ぎ時に、情報提供して、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれ状態等が異なるため、それぞれの入居者に合った、支援が出来るよう心がけている。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の夏祭りなど、参加できる行事は、参加できる支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族さまの同意のもと、当ホームの主治医が、月2回の往診をしてもらっている。急変した場合は、状態に合わせ、主治医や、救急病院へ、従業員が付き添い行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師に、週1回の訪問を受け、健康管理をしてもらい、その情報と、普段の情報を主治医に報告し、適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院と連携し、早期の退院が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化した場合に、施設として出来ることは、入居時に説明しており、それ以上のことは、主治医や病院と協議し決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練の実施が出来て無く、前回より間隔があいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1回は、消防署の方が来て、機器の動作確認を兼ねて実施しましたが、2回目が実施できていない。こちらも、早急に職員に担当者をやってもらい定期的な実施を行ってきたい。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人にあった言葉かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パズルや、作業など、行ってもらっているが、無理強いせず、本人のやりたいことを行ってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールは決まっているが、状態に合わせ、違う時間でも出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方は、できるだけ化粧してもらい、定期的に毛染めをしてもらっている。男性は、毎日髭剃りなど、身だしなみを整えてもらっている。また、定期的に、美容師に訪問してもらい、カットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に同じものを食べ、用意や片付けなど、できる方には、手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量などを記録し、一人一人に合わせ、水分補給や、補助食品の摂取をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、その方に合わせた口腔ケアを行っている。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツから、紙パンツ、布パンツへと、排泄の自立に向け支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄表をチェックし、個々に合わせた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体制上、毎日の入浴支援は困難なため、曜日を決め、職員1人が付き添い入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を見て、昼寝や運動をしてもらったりし、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者別に、一回ごとに分けてあり、職員は、薬の目的や副作用を理解し、服薬を支援している。体調が変化したときは、主治医に相談し、薬の変更もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のことをしてもらったり、お手伝いをしてもらったり、思い思いに過ごしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人での外出は行ってなく、職員、もしくは、家族様等の付き添いでの外出は、自由にいただいている。		

グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる方は、持ってもらいが、ほとんどの方が、必要なものは、立替払いをして、利用料と一緒に請求させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	節句などの飾りや、生け花教室で活けた生花などを飾り、季節感を出せるよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階は、スペースがあるので、テレビの前のソファなどゆったりと過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から、家具等を持ってきていただく前提で部屋をお貸ししているが、最近は、持ち込まれる方がほとんどいらない。また、畳が良い方は、畳を使用してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーなので、車いすで、全て移動できるようになっている。		